

2023年6月27日

会社名 株式会社パシフィックネット
代表者名 代表取締役社長 上田 満弘
(コード番号 3021 東証スタンダード)

梱包資材等の全面見直しにより、プラスチック使用量の大幅削減と輸送効率の向上を実現

株式会社パシフィックネット(本社:東京都港区、代表取締役社長:上田 満弘、以下 当社)は、環境負荷の低減と持続可能な社会の実現に向けて、主要拠点から製品を発送する際に使用する、段ボールと緩衝材の見直しを実施いたしました。

緩衝材をプラスチック製から環境負荷の低い再生紙に変更するとともに、発送用の段ボール容量についても約20%縮小した結果、プラスチック使用量を約75%削減(※)できることとなり、輸送効率の向上にも寄与することとなりましたのでお知らせいたします。

(※プラスチック削減量:年間約2.4トン、レジ袋に換算すると24万枚に相当)

1. 背景・目的

当社は、全ての事業・サービスが顧客企業の ESG 推進への支援となる特徴を有しておりますが、お客様への製品発送で相当数の段ボールとプラスチック緩衝材を使用していたことから、さらなる環境負荷の低減策の検討を進めてまいりました。

当社が扱う PC や周辺機器は、衝撃に弱い・重い・様々なサイズがあること等から、適切な梱包や緩衝材の選定が非常に重要です。プラスチック使用量の低減が可能な発送や梱包方法について様々なテストを繰り返した結果、環境にやさしく、かつ適切な梱包が可能な発送用資材全般の変更を実現いたしました。



資材見直しによるSDGsへの貢献項目



環境への負荷低減と資源効率の向上により、廃棄物削減と持続可能な資源利用が促進されます。



プラスチックの使用量低減により海洋へのプラスチック廃棄物の流入を減らし、海洋生態系への影響を軽減します。



資源保護や森林の持続可能な運営に貢献します。また、森林資源の節約につながります。

2. 資材の変更内容

梱包・発送で利用していたプラスチック使用量の約 75%を削減いたします。

- ① 段ボールサイズを従来比約 20%削減し、輸送効率の向上と発送用の緩衝材使用量の削減を実現
- ② 緩衝材を、従来のプラスチック製から再利用が容易な再生紙資材に切り替え

これにより、年間 2.4 トン、レジ袋 24 万枚分相当のプラスチックの低減が可能となりました。

緩衝資材の種類と特徴

プラスチック製緩衝材



メリット
軽量
取り扱いが容易
防水性が高い

デメリット
石油資源の利用・廃棄物の発生
自然に分解されず、長期的な環境影響の懸念

紙製緩衝材



メリット
環境への負荷が低く、リサイクルが容易
森林保護に貢献し、SDGsの目標達成に寄与

デメリット
防水性や衝撃吸収性がプラスチック製と比較して劣る

⇒ 当社は社内トライアルを経て、製品発送における最適なパッケージを実現しました

<荷姿>



今後も更なる環境負荷の低減へ向け、残る資材の見直しにも引き続き取り組んでまいります。

以上

【株式会社パシフィックネットについて】

当社は、『企業のIT支援を通し、「人々」「社会」を幸せにしたい』という経営理念のもと、各企業の多様なIT環境や要望に応じて、柔軟なカスタマイズを強みとした独自のサービスでDXを支援しています。IT機器のライフサイクルに沿った各種サービスの他、企業の様々な業務課題に対して、一緒に向き合い、寄り添った最適解を提供いたします。

【ニュースリリースに関するお問合せ】

未来戦略部 経営企画・マーケティンググループ:川島/田村
TEL:03-5730-1442
e-mail:ir@prins.co.jp
HP:https://www.prins.co.jp/